

【個人】

提出 平成 30年7月16日

山 行 報 告 書

山行報告提出者：鈴木

山 域・山 名： 雌 阿 寒 岳 (1,497m) (北海道足寄町)	
入山日：平成 30年 7月 8日 (日) 日帰り 帰宅日：7月 14日	
プラン担当者 正：鈴木 副：	
阿寒富士（左手前）と雌阿寒岳（中央奥）	
参 加 者	L：報：記： 鈴木 男 1名、女 名、計 1名
天候：晴れ時々曇り	
月 日()	集合時間： なし
7月 7日 (土)	空路羽田発 07：25 JAL 565 にて女満別 09：10 着 レンタカーにて阿寒湖畔移動、民宿泊
7月 8日 (日)	05：00 起床、レンタカーにて雌阿寒岳温泉登山口、06：50 山行開始 07：30 四合目 07：30-08：25 山頂 08：30-09：30 阿寒富士 09：40- 11：00 オンネトー 11：00-11：50 登山口着 行動 5h00 着後、斜里町の民宿へ移動し、翌日の斜里岳登頂準備。
荒天候時のエスケープルート： 引き返す	
装 備 と 食 糧	共同装備：共 同 食：車提供者： すべて無し 個人装備： ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、ストック、グローブ、テルモス（水）、 ツェルト、帽子、サングラス、日焼け止め、携帯トイレ、熊避け鈴、笛、カメラ、 防虫スプレー 個人食： 昼食、行動食
感 想	前日の雨は上がり3年連続の北海道登山の幕が切って落とされた。整備された登山道を歩き 4合目付近から這松帯に入る。7合目付近で樹林帯を抜けると火山の噴煙と切れ落ちた 迫力ある山肌が眼前に現れ、これから先どんな光景が待ちうけているのか考えるだけでわく わくしてしまう。山頂からはまるで黒いお茶碗を伏せたような見事なまでの円錐形の阿寒富 士が間近に現れ、それに向かう火山特有の荒涼としたお鉢の縁を歩く。150mほど高度を下 げ、阿寒富士を登り返すと青空に突き上げるような白く眩しい噴煙を従えた雌阿寒岳が再度 姿を現し、期待に違わぬ光景を目の当たりにすることができた。下山口のオンネトーは神秘 的な色彩に満ちた静かな湖沼で、遊歩道を歩き登頂の余韻に浸りながら登山口駐車場へ戻っ た。